

明石市初、小児特化看護師中心の重心型放課後等デイサービス 訪問看護でも支えながら、医療的ケア児に対し、入浴とリハビリや療育も提供



利用予定の児童、これまで
福祉型放課後デイで胃ろう
入浴・リハビリに期待



利用予定の児童、1歳から訪問看護
胃ろう・気管切開あり
7年間、開設を待望していた



当事業所の生みの親
日の出医療福祉グループ
医療看護部長 岸元知加子

【概要】

社会福祉連携推進法人 日の出医療福祉グループの社員法人である、社会福祉法人博愛福祉会（兵庫県加古川市、理事長 中村 達志）は、2025年6月1日（日）、兵庫県明石市大久保町「それいゆ訪問看護ステーション 大久保」に隣接して、**重心型放課後等デイサービス「それいゆキッズケアえがお」**を開設します。（開設日が日曜のため、子どもたちの通所は6月2日～）

開設に先立ち、**5月24日（土）～26日（月）、内覧会を実施します**。1日当たりの定員7名に対し20名の利用希望があり、そのうち超重症の医療的ケア児は8名（人工呼吸器装着5名、気管切開3名）、それ以外は胃ろう・喀痰吸引・痙攣発作対応の重度心身障害＋医療的ケア児です。

本施設は、

- ・ **明石市で初めて、訪問看護ステーションの看護師が中心に管理する放課後等デイサービス**（以下「放課後デイ」）で、重心医療的ケア児※に対する療育を担います。
- ・ 小児特化看護師が常駐し、多職種連携によるケアを行いながら、リハビリやレクリエーション、歌や創作などの療育を提供します。
- ・ **兵庫県でも数少ない入浴施設（ミスト浴を導入）を備えた放課後デイ**で、看護師と職員が入浴介助を行います。
- ・ 子どもたちが放課後デイに来ない日は、訪問看護ステーションの看護師がご自宅を訪問して看護ケアを提供することも可能です。

※「医療的ケア児」とは、NICU（新生児集中治療室）から退院した後も人工呼吸器や胃ろうなどが必須のため、喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童です。全国で約2万人いると推計されています。

【特徴】

- ① **医療的ケア（人工呼吸器、喀痰吸引、経管栄養など）小児特化看護師10名（若年層の訪問看護と兼務）**が中心に放課後等デイサービスを実施（明石初） **隣の訪問看護ステーションの他看護師約7名も医療的ケア児の対応が可能**
- ② **リハビリ専門職3名（作業療法士2、理学療法士兼保育士1）**が、一人ひとりに合った訓練を実施
- ③ **保育士や児童指導員2名（1名は理学療法士と兼務）**が**発達段階に応じ集団／個別療育**を働き掛け
- ④ 季節のイベントを開催し、お友だちをつくり、楽しんで通ってもらうように工夫

問合せ先

社会福祉連携推進法人
日の出医療福祉グループ
広報担当：中川 有希（なかがわ あき）
Mobile phone: 080-7312-5352
Mail: nakagawa.ak@hinode.or.jp
Tel: 079-490-7222 Fax: 079-427-0031

法人概要

〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家2333-2
代表者： 代表理事 大西 奉文（おおにし ともゆき）
設立： 2016年7月
会員法人： 社会福祉法人 日の出福祉会、医療法人 社団奉志会、社会福祉法人 博愛福祉会
サービス： 介護、保育、医療、障害
事業所数： 166力所 職員数：約3300人（2024年度）

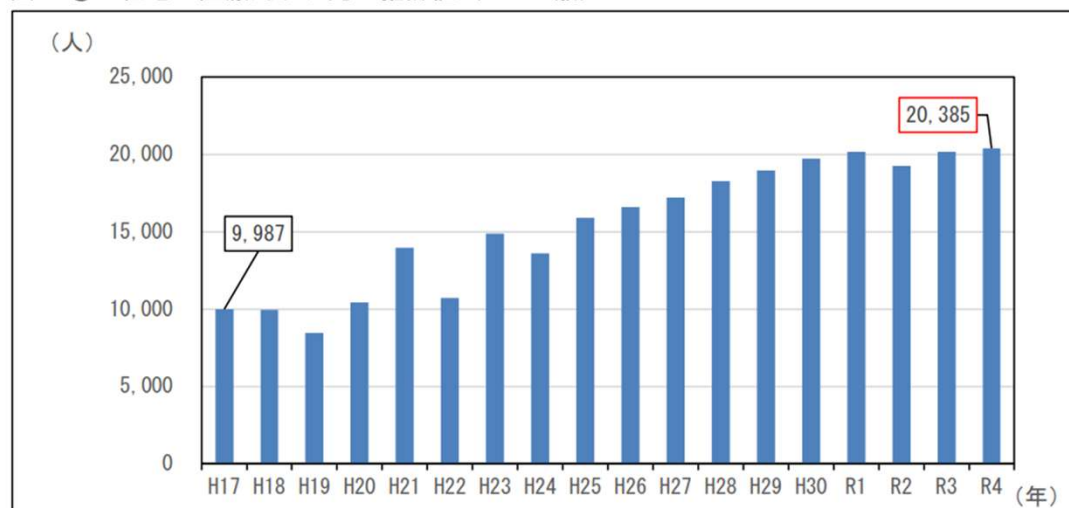


【社会的背景】

医療の進歩により、かつては出産時や小さいうちに亡くなっていた子どもを助けられるようになりました。その結果、新生児は減っているのに、医療的ケア児が増えるという現象が起きています。

それでも、以前は、医療的ケア児を新生児集中治療室などに長期入院させておくことができたので、問題が顕在化していませんでした。ところが、**介護保険ができ、高齢者と同様「子どももできるだけ在宅で」という流れになってきたため、医療的ケア児の受け皿が足りないという社会的課題が、深刻化しています。**

図 1-① 在宅の医療的ケア児の推計値（0～19 歳）



(注) 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」及び当該研究事業関係者の協力のもと、社会医療診療行為別統計（各年 6 月審査分）によりこども家庭庁支援局障害児支援課で作成した資料に基づき、当省において作成した。

【社会的背景：医療的ケア児の実態】

保護者（主に母親）が、1日24時間全部1人で、喀痰吸引、胃ろうの栄養注入、痙攣への対処などの医療的ケアはもちろん、本人の着替え、入浴、食事、排泄などの生活介助をしています。喀痰吸引は夜中、2時間毎にしている方もいます。入浴介助では、大きくなった子どもを人工呼吸器をつけたまま風呂に入れるのが重労働です。

医療保険の訪問看護の枠は最大でも1回1時間半なので、保護者は、自分自身の病院受診や健康診断に行く時間も確保できません。放課後デイのように長時間預かってくれる施設が必要です。

保護者は仕事を辞めざるを得ない一方で、医療費などの出費が増え、金銭的に苦しくなります。放課後デイと他のサービスを併用すれば、職場復帰できるかもしれません。

15年前、明石市では、医療的ケア児等の受け皿は、訪問看護ステーションで1か所だけ、母子分離のデイサービスはほぼゼロでした。人員・設備を整えるのにお金がかかるからです。

2021年、医療的ケア児支援法ができ、国や地方自治体が医療的ケア児に対して支援を行うことが「努力義務」から「責務」になりました。

今では、明石の訪問看護ステーション50か所中4～5カ所、放課後デイや児童発達支援も4カ所、受け入れを始めました。保育園や学校での支援も進んでいます。とはいえ、簡単な医療的ケアだけのところが多く、人工呼吸器をつけている子どもの受け入れは進んでいません。

問合せ先

社会福祉連携推進法人
日の出医療福祉グループ
広報担当: 中川 有希(なかがわ あき)
Mobile phone: 080-7312-5352
Mail: nakagawa.ak@hinode.or.jp
Tel: 079-490-7222 Fax: 079-427-0031

法人概要

〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家2333-2
代表者: 代表理事 大西 奉文(おおにし ともゆき)
設立: 2016年7月
会員法人: 社会福祉法人 日の出福祉会、医療法人 社団奉志会、社会福祉法人 博愛福祉会
サービス: 介護、保育、医療、障害
事業所数: 166カ所 職員数: 約3300人 (2024年度)



社会福祉連携推進法人

日の出医療福祉グループ

<https://hinode.or.jp>



【設立までの経緯】

今回の新事業所設立は、医療看護部長である岸元知加子の悲願でした。

岸元は、若いころから、兵庫県立病院で、重度の障害を持つ子ども（当時は「医療的ケア児」という言葉はなかった）に接していましたが、国が在宅医療を推進するようになり、約15年前から、訪問看護の現場で、医療的ケア児を看ることが増えてきました。

岸元は、**このままでは到底子どもたちを支えきれなくなると痛感し、子どもたちを看る理念や技術を身に付けた看護師が常駐し、保護者の負担を軽減できる、訪問看護ステーションと放課後等デイサービスを併設した事業所を作りたい、**と考えるようになりました。

7年前に、日の出医療福祉グループに入職し、それいゆ訪問看護ステーション大久保で、22人の医療的ケア児を看ながら、後進の看護師を育成してきました。

これまで見てきた中で訪問看護を卒業できた子どもは5人います。以下は印象深かった3例です。

ひとりとは、心臓疾患があつて小さく生まれ、ミルクが飲めませんでした。2ヶ月ぐらいで病院を出てからは、鼻にチューブを入れ、ミルクを胃に流し込んでいました。その後、哺乳瓶の練習をした結果、哺乳力がつき、体も大きくなり、手術に耐えられるようになりました。手術は成功し、今では、普通の保育園に行けるようになり、幼稚園で訪問看護を卒業していきました。

別の子は、肺に疾患があつた子で、人工呼吸器をつけていました。発語も遅れ、身体能力は2年ぐらい、遅れていました。けれども、「この子は必ず育つ」と思って関わり、呼吸器をつけている間も声掛けを続け、3歳までに呼吸器を外すことに成功しました。そこから、地域のリハビリ施設と連携しながら体力をつけ、幼稚園は介助補助員付きでしたが、小学校はひとりで行けるようになりました。

あとひとりも、気管切開し、人工呼吸器をつけていましたが、2歳で呼吸器が取れ、「きしもとさん」と言葉が出るようになり、訪問看護の必要がなくなりました。

上記のような経験を積み、育成や採用に繋がり、開設にこぎつけることができました。

訪問看護を卒業できないお子様も少しずつ成長発達しています。今回の事業はそんな子供達と保護者さんのための事業です。彼らが成人になるまでに、社会へつないでいく役割もあります。

ただ、**障害者総合支援法の枠組みの中で、これだけの医療依存度の高いお子さんを見るのが、いかに法的に難しいかを現在痛感しています。事業を継続するためには、看護師等の専門職は必須です。事業運営を継続するための収支バランスが今後の課題**です。

【今後の展開】

本事業所では、**①お風呂設備、②医療的ケアをしっかりとでき、送迎に同乗できる小児に特化した看護師、③障害専門の療育ができる人、という三本柱を目標**にしています。

この「訪問看護ステーション+障害者総合支援法の事業」いう形態を、**まずは兵庫県南部、そして将来は、困っている地域があれば全国へ、広げていきたい**と考えています。

近い将来には、就学前児童の発達支援や、子どもたちが大きくなったときの生活介護サービスまで実施する計画です。

明石市には、超重症児と呼ばれる医療的ケア児の救急病院もなく、往診医もないことも課題です。当事業所の場合は、日の出医療福祉グループ在宅診療部の大西潤医師が嘱託医として対応します。

問合せ先

社会福祉連携推進法人
日の出医療福祉グループ
広報担当: 中川 有希(なかがわ あき)
Mobile phone: 080-7312-5352
Mail: nakagawa.ak@hinode.or.jp
Tel: 079-490-7222 Fax: 079-427-0031

法人概要

〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家2333-2
代表者: 代表理事 大西 奉文(おおにし ともゆき)
設立: 2016年7月
会員法人: 社会福祉法人 日の出福祉会、医療法人 社団奉志会、社会福祉法人 博愛福祉会
サービス: 介護、保育、医療、障害
事業所数: 166カ所 職員数: 約3300人 (2024年度)



社会福祉連携推進法人

日の出医療福祉グループ

<https://hinode.or.jp>



【施設概要】

名称：それいゆキッズケア えがお
場所：兵庫県明石市大久保町西脇519
電話：078-939-5887
対象：小学校入学～高校卒業までの
重心医療的ケア児
(医療的ケア児要相談)
定員：7名/日
開所：月曜～土曜（日曜休）
営業時間：
平日：14:00～17:00
土曜・学校休業日：10:00～16:00
短縮：11:30～17:00
特徴：看護師常駐、入浴設備あり
対応する医療的ケア：
・喀痰吸引・経管栄養・導尿・人工呼吸器装着
・血液中の酸素飽和度と脈拍数の測定
・在宅酸素療法・インスリン注射など



【利用希望者の待望の声】（保護者50名対象、2025年2月実施）

- ・子どもにとって安全に安心して、楽しく過ごせるデイサービスを送ってほしいです！**土曜日は退屈な曜日じゃなく、楽しい曜日になってほしいです！**
- ・子供たちの居場所を作っていただきありがとうございます！**しかも入浴してもらえるなんて、親にとってもありがた過ぎます！**
- ・知的重度と、身体2級の障害があり、リハビリも月に一度通っています。新しくそれいゆキッズケアえがおさんが開設されると聞き、是非利用させていただきたいと思っています。**現在利用中の放課後デイサービスが、1か所小学校までで終わりなので、移行のご相談をさせていただけたらうれしいです。**
- ・平日は近場のデイに行ってますが、土日祝日が仕事で休みにくく、預かり先を探してます。場所的に難しいのかな。とも思いましたが、ご連絡させていただきました。毎週でなくてもいいのですが、土曜日や祝日の空きがある日でお願いしたいという思いです。
- ・1日利用の時など、**昼食(ミキサー食)**はありますか？毎週、水～金希望です。うち2日間は利用したいです。
- ・現在〇〇養護学校に一日付き添いで子供と学校へ自家用車を使って通っています。**学校が終わってからの帰り道の時間帯で利用したいです。**
- ・**長期お休み期間中の利用可能時間帯**も教えて頂けると助かります。よろしくお願い致します。
- ・現在、××を火曜日、水曜日に学校までお迎えに行ってもらっています。**両親は仕事をしておりますので、もし可能であれば利用させていただきたいです。**
- ・車椅子利用です お絵描きが好きです よく笑います **学校までのお迎えは可能ですか？ 帰りに自宅までの送迎はありますか？**
- ・**重心寝たきりだけど医ケアなしの子や、重心医ケアなし介助ありだと少し歩ける子、など受け入れ可能ですか？**

問合せ先

社会福祉連携推進法人
日の出医療福祉グループ
広報担当: 中川 有希(なかがわ あき)
Mobile phone: 080-7312-5352
Mail: nakagawa.ak@hinode.or.jp
Tel: 079-490-7222 Fax: 079-427-0031

法人概要

〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家2333-2
代表者: 代表理事 大西 奉文(おおにし ともゆき)
設立: 2016年7月
会員法人: 社会福祉法人 日の出福祉会、医療法人 社団奉志会、社会福祉法人 博愛福祉会
サービス: 介護、保育、医療、障害
事業所数: 166力所 職員数: 約3300人 (2024年度)

